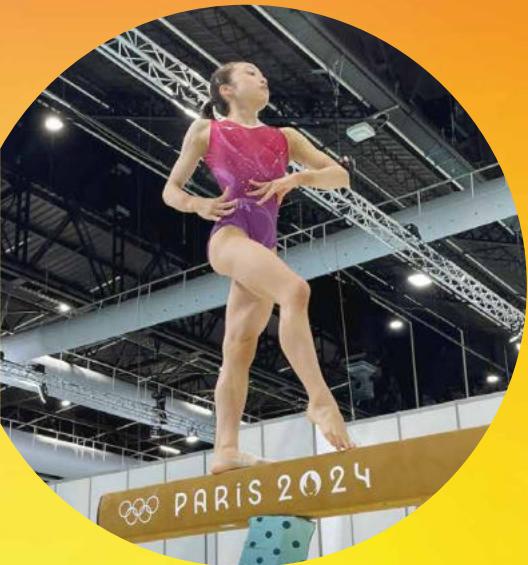


AKATSUKI GAKUEN Newsletter

Autumn 2024



岡村 真さん、
パリオリンピック 8位入賞！

暁学園報
vol.258

「臨床検査学専攻」(修士課程)スタート
中高祭でSDGsを実践
小学校の独自英語カリキュラム





岡村 真さん (四日市大学総合政策学部 1年)

パリオリンピック2024 女子体操競技出場 堂々の8位入賞

オリンピック出場という輝かしい瞬間、そして次のオリンピックに向けた、様々な大会での活躍を、四日市大学の一員として共有できることに感謝したいと思います。

オリンピック、それはすべてのアスリートにとっての憧れの対象であり、晴れの舞台です。すでに暁高校在校時代から、数々の功績をあげてきた岡村さんが、本学学生として、パリの地で飛躍したことは、私たちの脳裏から消えることはないでしょう。

さて、岡村さんから出場の感想とパリオリンピック滞在時の写真を提供してもらいましたので、ご紹介します。

岡村 真さんからのメッセージ

総合政策学部1年の岡村真です。

この度はパリオリンピックの応援、誠にありがとうございました。

皆さんの温かい声援、たくさんの支援があり、無事演技をやりきることができました。

団体メダルを目標にしていましたが、結果は8位入賞で目標に届かず、自分の演技も課題がたくさん見つかる試合であり、悔しさが残る試合でした。ですが、体操を始めた頃からの目標であるオリンピックという舞台で、笑顔で楽しむことが出来ました。

緊張感もある中、自分の準備してきたことを信じて、次のメンバーにしっかり繋ぐと
いう強い気持ちでやりきました。

今回オリンピックを経験して、自分のレベルアップに繋がることが沢山見つかった
ので、次に向けて頑張っていきたいです。

改めて応援、ご支援ありがとうございました。

これからもよろしくお願ひ致します。





(岡村 真さん)

帰国後の9月12日には、本学の喜岡涉学長にオリンピック出場の報告をしてもらいました。外村和才監督と日本チームの制服に身を包んだ岡村さんを出迎えた喜岡学長は、オリンピックでの入賞を労うと共に、5月の女子JALエレガンスウイング賞の受賞やオリンピックのPR放送での平均台演技の美しさなどを賞賛されました。鬼頭副学長、体操部の柳瀬部長が同席しました。

岡村さんからは、開会式や閉会式に出られなかったこと、試合終了後の2日後には帰国しなければならなかっことなどのスケジュールの紹介がありました。身長147cmと小柄な岡村さんですが、腕には打撲の跡が残っているなど、オリンピアンの厳しい練習の跡を垣間見ることができました。

引き続き、国内の競技大会が続き、まだまだ気の抜けない岡村さんですが、9月27日には、本学の「人間たれ」の授業にて、同じ1年生の前で、学長賞(スポーツ功労賞)の授与が行われました。



(左から 鬼頭副学長・喜岡学長・柳瀬部長)



(左：外村監督 右：喜岡学長)

四日市大学



「卵卵ふわあ～む」四日市店を見学する本学の学生たち

産官学によるコラボ企画 ~スイーツ商品開発~

現在、四日市大学総合政策学部の二村・鶴田ゼミ学生および環境情報学部の有志学生が、スイーツの生産・販売を行っている「卵卵ふわあ～む」との商品開発に取り組んでいます。

「卵卵ふわあ～む」は、三重県で鶏卵・鶏卵加工品の販売を行っている垣善フレッグ株式会社の直営店で、紀伊長島に本店を置き、高速道路四日市インター近くにも支店があります。垣善フレッグ株式会社が開発した、コレステロール値の低下や心臓や肝臓機能の強化などの働きを持つタウリンという成分を含む健康志向の高い卵を使って、学生の視点で商品開発を行うというのが今回の企画の狙いです。

またこの企画は、レディオキューブFM三重での番組「ほっと紀北町」の放送開始15周年記念企画でもあり、「卵卵ふわあ～む」の本店がある紀北町の支援も受けているなど、まさに産官学の協働プロジェクトとなっています。

学生たちは、四日市店で現在どのような商品が販売されているのかを見学した後、7月には大学において企業側の要望や課題、紀北町の若者や観光客を惹きつけたいとの思いについてお聞きし、意見交換を行いました。そして現在は、商品企画を考える上で必要となる、マーケティングを効果的に進めるための手法であるSTP(Segmentation～Targeting～Positioning)や4Ps(Product, Price, Place, Promotion)など経営学の基礎的な学びを元に、商品開発だけでなく、情報発信や広告宣伝なども含む様々なアイデアを出し合い、継続的に議論を重ねています。このような取り組みは、四日市大学がかねてより力を入れてきたPBL(課題解決型学習)の好事例といえるでしょう。

2025年に向けて、今後、具体的な商品開発、テスト販売、本格販路開拓とコラボ事業は展開していきます。どのようなスイーツが誕生するか、楽しみにお待ちください。



「卵卵ふわあ～む」、紀北町役場、レディオキューブFM三重ナビゲーターの方々と学生との意見交換会

デジタル・グリーン・メディアを融合する教育・研究

～新学部開設に向けて～



四日市大学は「大学・高専機能強化支援事業」に採択され、デジタル・グリーン分野の人材を育成する環境情報工学部(仮称)を開設する準備を進めています。環境情報学部では新学部の開設に向けて、これまでの専攻の枠にとらわれず、デジタル・グリーン・メディア各領域の融合を目指したさまざまな教育研究活動に取り組んでいます。

たとえば、コウモリの鳴き声をAIで解析してその生態を探る研究や、先端デジタル技術を用いて地域に眠る貴重な映像・音声資料をデジタルアーカイブとして復活させる研究が特定プロジェクト研究として大学から認定されています。



越冬するモモジロコウモリ



映像・音源資料

グリーンとメディアをつなぐユニークな授業として、環境情報学部1年生対象の「地域連携環境講義」では、里山暮らしをしながら里山にちなんだ楽曲制作や里山での音楽会を開催されている音楽家のChojiさんをお招きし、大学内のスタジオで講義と演奏会を行っていただきました。この演奏会での音響照明演出は、音響・照明の各研究室の教員と学生が担当しました。豊かな里山をまもるグリーンな活動を、デジタル技術を使って、音楽というメディアを通して伝える、デジタル・グリーン・メディアの融合を目指す環境情報学部らしく楽しい授業になりました。

今年度からは分野融合の目玉企画として、これまで専攻ごとにそれぞれ開催されていた卒業研究・制作の発表会をひとつにまとめて環境情報学部全体の合同発表会として開催する計画も考えています。これから環境情報学部では新学部の開設に向けて新しい取り組みにどんどん挑戦していく予定です。ぜひ応援よろしくお願いします。



Chojiさんによる演奏会

四日市看護医療大学

自己内省力を育てる

～助産師養成課程におけるシミュレーション教育～

近年、少子化が急速に加速し、助産師教育においては臨地実習期間内に十分な分娩介助の経験をさせることができ困難となっています。限られた期間で実習目標を達成するため、実習開始前に学内での分娩介助実践能力を向上させておくことが求められています。

そこで、本学の助産師国家試験受験資格取得科目履修コースでは、実習前準備としてシミュレーション教育を取り入れています。シミュレーション教育とは、実際の臨床の場や産婦を再現した学習環境の中で、学生が課題に対応する経験、振り返り、ディスカッションを通して学習を行います。臨地実習で受けもつ産婦を想定したシナリオ(模擬事例)に基づいてシミュレーションを行います。ケア実践や場面に応じたやり取りについては、模擬産婦として臨床経験豊かな教員が担当します。分娩介助場面では、産道・外陰部を模したシミュレーターを用い、模型の胎児を模擬産婦が操作し、手順と清潔操作を確実に習得できるようにしています。



模擬産婦がリアルなうめき声をあげると、ほとんどの学生は思考が停止してしまい、産婦や胎児の状態に応じた配慮ができなくなります。陣痛に苦しむ模擬産婦とコミュニケーションを取りながらニーズを把握し、助産診断に基づいた助産ケアを行うことは、臨地実習の場で求められることであり、シミュレーション教育で学生に経験してほしい課題の1つです。

実践後の振り返りでは、「できた」「できなかつた」という2分法の評価ではなく、「何が分かったのか」「何ができるようになったのか」「次の機会ではどんな工夫をするのか」を深められるよう学生の思考を刺激していきます。さらに、他者の意見を聴きその内容を加味した上で、行為に対する知識や行為に対する振り返りを促すことで、自分自身を客観視することができ、自分の強みや自己課題に気づけることを期待しています。こうした経験を通して、分娩介助技術・知識の習得や思考のプロセスを身につけるだけなく、自己内省する力を育むことができます。

大学院 看護医療学研究科

「臨床検査学専攻」(修士課程)スタート



新型コロナウイルス感染拡大時に毎日ニュースで流れていたワード「検査」「PCR検査」。検査が注目された数年間でした。病気の早期発見につながる健診、検診、医療機関で行われる「臨床検査」が重要であることも周知されました。臨床検査技師を取り巻く環境も変化し、医療機関で養成校の学生が実習をする「臨地実習」において、医療機関側も「臨地実習指導者」を配置することが義務付けられ、検査業務の他に学生教育にも積極的につかわる必要性が出てきました。新型コロナウイルス感染症拡大を機に感染初期を見つけるための新たな「臨床検査手法」の研究・開発も注目されています。高度専門技術・知識を備え、学生教育にも従事できる修士(教育、研究者)の養成が急務になっています。その要望に応えるために、本学大学院臨床検査学専攻を2024年4月にスタートさせました。本専攻は「病因解析検査学分野」と「病態解析検査学分野」の2分野から臨床検査学を牽引する研究者、教育者を育成することを目標とします。日進月歩で進歩する最新医療技術に対応でき、また新たな技術を作り出す柔軟な思考力、想像力を活かし臨床検査学の開拓と発展に貢献できる人材を育成します。また併設の看護学専攻と連携し、他分野研究者との共同研究も可能であり、既存の臨床検査領域だけでなく臨床検査技師の新たな領域である「在宅医療」領域の研究も可能であるという特色を持っています。昼夜開講、リモート講義を導入し、社会人の方も学びやすい学習環境を作っています。現在第1期生は6名の社会人学生です。昼間は医療機関で臨床検査技師として従事し、夜間、土曜日に講義・研究に取り組む予定です。現在順調に単位を取得し、修士論文作成に向けた専門性の高い研究テーマを設定し、研究をスタートさせています。本専攻科で学ぶ知識・技術、研究マインド、リーダーシップを兼ね備えた未来の「臨床検査技師」を目指していただきたいと思います。



暁高等学校

暁高校1年生にタブレット(iPad)を配付

～ICT教育の推進とDXハイスクールに向けて～



5月8日(水)、1年生全員にタブレット(iPad)が配付されました。配付にあたっての初期設定には、DXハイスクール推進委員会の教員が指導にあたりました。生徒の皆さんにはAppleの白い箱を手になるとやや興奮気味でしたが、実際に電源を入れて起動させると分からなくなってしまう生徒もいて、推進委員の教員が一人ひとり指導にあたりました。いよいよ翌日には電子ペンシ

ルも届き、これからタブレットを使った授業がスタートします。

また、文部科学省はDXハイスクールをデジタル人材の育成と文理横断型の探究学習に取り組む拠点と位置づけ、理数教育強化のために2002年度から一部の高校を「スーパーサイエンスハイスクール」に指定しましたが、2030年には国内のデジタル人材が約79万人不足すると推定されており、これからのデジタル社会を担う人材への教育を大学入学よりも前から強化するため、新たに「DXハイスクール」を指定しました。暁高校は探究学習とICT教育の推進が評価され、令和6年4月より指定を受け、現在カリキュラムの検討を行っています。



総合探究第2学年大学研究室訪問

～四日市大学総合政策学部・環境情報学部との高大連携～

「総合的な探究の時間」において地域課題について探究活動を行っていく上で、大学の先生方から探究活動の進め方などを助言いただき今後の活動の参考とする目的で、7月5日(金)～10日(水)までの4日間、2学年で四日市大学の研究室訪問を行いました。

そこでは、①課題解決を行う中で、自分の興味関心を探り、進路のきっかけを見つける。②課題解決の思考を身につけ、世の中の出来事に興味を持つ。③プレゼンテーションを通して、表現力や行動力、聞く力を身につける。の以上3点を探究的学びの目標としました。

当日は四日市大学まではアルバちゃんバスを使い、四日市大学へと学びの場を移した2年生ですが、普段とは違う教室や研究室で、慣れない雰囲気で緊張しながらも総合探究活動の進め方やアドバイスをいたわいていました。これが探究の学びのきっかけとなることを期待しています。



暁中学校・高等学校

中高祭の模擬店運営にプラスアルファ

中高祭模擬店でSDGsを実践～第5学年の取り組み～



かき氷販売担当の生徒たち

暁中学校・高等学校では9月6日(金)～7日(土)の2日間、第38回中高祭「FORWARD」が行われました。776名の来校者に、オープンスクールで見学に来ていただいた29組、暁小学校5年生59名を加え、今年度も例年通りの盛り上がりを見せた中高祭でしたが、今年度の第5学年では、持続的な開発目標(SDGs)に配慮した模擬店運営を行いました。

取り組みのほとんどが、生徒たちの発案によるものであり、運営も生徒主体で行われました。

植物性容器▶



実践した7つのアクション

1 地産地消の取り組み

かき氷には四日市市水沢の抹茶、四日市市の製餡工場の餡を、たませんにはいなべ市の養鶏農家の卵といったように、地域の農家や生産者から直接仕入れた新鮮な食材を使用しました。輸送にかかるエネルギー消費を削減し、地域経済の活性化に寄与しました。

2 植物性容器の使用

模擬店で使用する容器は、すべて植物由来のもの(サトウキビの絞りカス)を使用しました。使用後は校舎内に埋め、土に還すことで、地球環境の向上を推進しました。

3 生ごみの資源化

模擬店活動で出た生ごみは、校舎内に埋め、土に還すことで、地球環境の向上を推進しました。

4 廃油の再利用

唐揚げ、ポテトを揚げる際に使用した廃油を再利用し、手作り石鹼を作りました。

5 プラスチックのリサイクル

分別を徹底し、プラスチックごみをリサイクルしました。

6 ペットボトルキャップの回収

第2学年や学内有志で、ペットボトルキャップのリサイクル運動を行いました。

7 提供時間のシステム化

提供時間が長いメニューについては、QRコードで待ち番号がわかるシステムを導入し、スムーズな提供を行いました。

提供時間お知らせシステム▶



▲資源化のためのごみを埋める生徒たち



▲植物性容器を埋めるための穴を掘る生徒たち



▲生徒たちをサポートした5学年団の先生方

SDGs



▲生徒作成のポスター

私達は文化祭の模擬店運営を単なる販売活動ではなく、持続可能な社会の実現に向けた運動として位置づけました。

学年のみならず、学校全体、そして来校していただいた皆様と、この取り組みを共有できたことで、持続可能な社会の実現に向けた行動を広げることができたと考えています。

今回の生徒たちの取り組みは、チームワークや想像力、自立心を育む貴重な経験となりました。一人一人がアイデアを出し合い、自発的に行動することで、この中高祭がより豊かで、魅力的なものになりました。この経験を通じて築き上げた絆や学びが、今後の成長に大きく寄与することを願っています。

暁小学校

強みは高い英語力の獲得

暁だからできる6年間の独自カリキュラム

暁小学校では、独自のカリキュラムを設定し、外国人教員と日本人教員がチームで授業を行っています。授業は必要な時以外はすべて英語で行うので、児童は6年間を通じて沢山英語に触れ、英語の指示や説明を徐々に理解できるように成長していきます。また、児童の発達段階に合わせて、学年毎に異なるテーマを設定して授業を行っています。そうすることで、大切な単語や表現を、異なる場面(例えば会話・発表・作文・読解など)で繰り返し見聞きし使うことができ、飽きずに楽しく英語を習得できるよう工夫をしています。

暁幼稚園とも連携し、低学年で楽しくフォニックスを習得



低学年では、Jolly Phonicsという指導法を用いて英語の文字と音の関係(フォニックス)を学習しています。Jolly Phonicsは英語を母語としない子供でも学びやすいとの定評があり、世界120カ国以上で使われている指導法です。英語の42音1つ1つに物語・歌・ジェスチャーがついており、1・2年生は、歌を歌ったり体を動かしたりしながら、楽しく効果的にフォニックスを習得しています。2年前からは暁幼稚園の年長さんクラスでもJolly Phonicsを使った遊びや学習に取り組んでおり、幼から小への移行がよりスムーズになり、フォニックスの定着もより進むようになりました。

オリジナルテキストやノートで学びを深める中学年

3年生では、自分の好きな色やスポーツ・誕生日や家族などの身近な話題に関する会話やスピーチに、4年生では、短い詩やスキットの音読練習やグループでの発表活動に取り組んでいます。どちらの学年でも、児童同士が関わり合いながら、英語で生き生きと自己表現する姿が見られます。同じ詩やスキットでも、グループによって声の出し方や動作などの表現方法が異なる所が面白く、互いに学び合う楽しさを感じているようです。また、昨年度からは、オリジナルテキストとノートを使って授業を行っています。テキストやノートを導入したことで、見通しを持った学習・家の復習がしやすくなると同時に、低学年で学習したフォニックスを生かして、英文を読み書きする活動を授業や宿題に取り入れやすくなり、4技能をよりバランスよく学べるようになりました。



英語で学び、運用能力を高める高学年



高学年になると、週2回から週3回に授業数が増えます。5年生では、異文化への理解を深めることを目標に、世界の挨拶・食べ物・遊び・お祭りなど様々なテーマについて英語で学習しています。英語で学ぶことは容易ではありませんが、ビデオや写真、授業内容を振り返ることができる宿題ワークシート、パソコンを使った復習ゲームなどを活用することで、児童は自分なりに理解を深め学習を前に進めています。6年生では、中学進学を見据えて、英語の文法学習や英作文、英文読解などに取り組んでいます。ロイロノートを活用して、児童が家でも英語の音読練習ができるようにし、定期的に音読を録音提出してもらいフィードバックを返しています。この活動を通じて、英語の発音やイントネーションなどに磨きをかける児童が増えてきました。

また、暁小学校では、主に高学年児童を対象とした国際交流も行っています。7月29日に実施した「International Day」には5・6年生の希望者35名が参加し、アメリカ・オーストラリア・ブラジル・中国の4名の講師の先生から、国紹介をしてもらい、各国にちなんだ遊びや工作、絵本の読み聞かせ、アメリカンホットドック作りなどを体験しました。積極的に学習や交流に参加する児童が多く、実りある時間となりました。

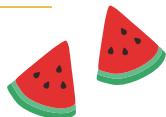


6年間のカリキュラム



暁幼稚園

夏期保育は楽しいことがいっぱい!



暁幼稚園では、お盆前後の学園閉鎖期間を除き、ほとんど毎日のように夏期保育を行っています。登園は8:30～9:30。降園は14:15。バスも平常保育の時と同じように運行しています。対象は全園児。毎日70～90名ほどの子どもたちが登園してきます。

今年の夏は、とても暑く猛暑日が続きましたので、なかなか戸外で遊ぶことはできませんでしたが、テントを設置し日が当たらないようにしたシャワーポールで毎日水遊びをしたり、ホールではマットや鉄棒、平均台、滑り台、跳び箱、トランポリンなどを使って運動遊びをしたりしました。また、体じゅうに絵の具を塗ったり、新聞紙を敷いた廊下に手形や足形をスタンプのように押してみたりしてボディペインティングを楽しんだり、プランターでできたキュウリやトマト、スイカなどを食べたり、スライムづくりやネックレスづくり、手裏剣づくり、メガホンづくりなどの制作活動にチャレンジしてみたり、年長組の子どもたちが小さい組の子どもたちを夏祭りに招待してくれたりするなど、平常保育ではあまり経験したことがない面白い活動を数多く体験することができました。そして、最後の週は、2学期の運動会にむけて運動会ごっことして玉入れやかけっこ、リレーなどに挑戦し、運動会にむけて意欲を高めていくようにしました。



夏期保育では、隣の保育室との壁をなくし、2部屋分の広さのスペースに、同じ学年の子どもたちが一緒にに入って活動します。ですから、同じクラスの友達だけでなく、ふだん話す機会が少ない友達や先生とも交流することができます。いろいろな友達と触れ合うことを通じて友達の良さに気づくことができ、お互いに成長することができるよい機会となっています。

なかまとの絆を深めた夏合宿!



6月28日・29日に、年長組の夏合宿がありました。

子どもたちの中には、はじめて家族と離れて友達と一緒に宿泊する子もあり、出発前には不安そうに涙ぐんでいる子もいました。

1日目の天気は、あいにくの雨。最初の目的地「三重県民の森」では、予定していた虫捕りの代わりに公園内にある「三重森林教育ステーション」で、木でつくられた滑り台や迷路、おもちゃなどで遊ばせていただき、木のぬくもりや自然の優しさを感じることができました。その後「菰野町B&G海洋センター」の体育館へ行き、ゲームや運動遊びで思いきり体を動かし、いよいよ宿泊先の「湯の山ロッジ」に到着です。目の前を流れる川には、大きな岩のような石がたくさんあり、流れる水の音もひとときわ大きく聞こえました。

まず、1階のロビーで、班ごとに並んで「よろしくお願ひします」と係の方に挨拶をして部屋に入らせていただきました。部屋では、荷物整理、布団敷き、入浴の準備、着替えなど、いつもなら家族に手伝ってもらうこともすべて自分たちでします。「わからない」「できない」などと言って泣き出してしまった子もいるのかな?と思いや、どの子も笑顔で同じ部屋の友達とお互いに助け合いながら楽しそうに取り組んでいました。なかまの力は偉大だと改めて実感しました。夕食は、大広間で子どもたちの大好きなカレーライス、エビフライ、から揚げ、サラダにオレンジゼリーでした。夕食後は、子どもたちの願いが叶ったのか、雨がやみ花火をすることもできました。そして、お楽しみタイムでは先生たちのマジックショーを見て大きな歓声を上げて盛り上がったり、クイズや絵本の読み聞かせを楽しんだりしました。また、家とは違う大きなお風呂にみんなで入り、先生にスポンジで体を擦ってもらい1日の疲れをとることができました。

2日目は天候にも恵まれ、予定していた活動をすべて行うことができ、充実した2日間を過ごすことができました。

後日、保護者の皆様から、「家に帰ってから、いろいろな話をたくさん聞かせてくれて、楽しかったことがよく分かりました」などのお声や感謝の気持ちをお手紙で数多く届けていただきました。

この2日間の合宿を通して、子どもたち同士の絆が深まり、子どもたちが大きく成長してくれたことをとてもうれしく思います。



オープンキャンパス・入試説明会（10月～12月）

※詳細は各校HP参照

● 暁高等学校（3年制）

親子説明会イブニング①	10/25(金)
入試問題解説会・保護者説明会	11/10(日)
親子説明会イブニング②	11/22(金)
親子説明会イブニング③	11/29(金)
親子説明会イブニング④	12/7(土)

● 暁中学校・高等学校（6年制）

中学校問題解説会	10/20(日)
高等学校説明会・問題解説会	11/3(日)
中学校個別相談会＆スクールツアー④	11/16(土)

● 暁幼稚園

体験説明会（1歳児親子）	10/29(火)・10/30(水)
体験説明会（満3歳児・2歳児子ども・2歳児親子）	10/31(木)・11/1(金)

入学試験（10月～12月）

※詳細は各校HP参照

● 四日市大学（全学部共通）

公募制推薦A日程	出願期間：11/1(金)～11/7(木)	試験日：11/9(土)・11/10(日)
公募制推薦B日程	出願期間：12/2(月)～12/12(木)	試験日：12/14(土)
指定校制推薦	出願期間：11/1(金)～11/7(木)	試験日：11/9(土)
クラブ推薦A日程	出願期間：11/1(金)～11/7(木)	試験日：11/10(日)
クラブ推薦B日程	出願期間：12/2(月)～12/6(金)	試験日：12/14(土)
AOII期	出願期間：11/14(木)～11/21(木)	試験日：11/23(土)
過疎地・離島生徒II期	出願期間：11/14(木)～11/21(木)	試験日：11/23(土)
外国にルーツを持つ生徒II期	出願期間：11/14(木)～11/21(木)	試験日：11/23(土)

● 四日市看護医療大学

総合型選抜（臨床検査学科のみ）	出願期間：10/9(水)～10/16(水)	試験日：10/19(土)
学校推薦型選抜	出願期間：10/21(月)～11/1(金)	試験日：基礎テスト方式11/8(金) 小論文方式11/9(土)
育成会奨学生選抜（看護学科のみ）	出願期間：10/21(月)～11/1(金)	
前期日程		試験日：11/8(金)
あかつき特待生選抜（臨床検査学科のみ）	出願期間：10/21(月)～11/1(金)	
前期日程		試験日：11/8(金)
社会人等特別選抜	出願期間：10/21(月)～11/1(金)	試験日：11/9(土)

● 暁中学校

帰国生入試	出願期間：12/2(月)～12/16(月)	試験日：12/24(火)
-------	-----------------------	--------------

● 暁小学校

出願期間：10/28(月)～11/6(水)	
入学検定 親子面接：11/9(土)または11/10(日)	
入学考査：11/17(日)	



[学園報 秋号 vol.258]

発行日 / 2024年10月11日

発 行 / 学校法人暁学園

〒512-8538 四日市市萱生町238 TEL 059-337-2345

学園HP / <https://www.akatsuki.ed.jp>



暁学園公式キャラクター
アルパちゃん